



野比中だより

絆 きずな
—私らしく生きる—

横須賀市立野比中学校

〒239-0841

横須賀市野比4-4-1

tel:046-849-3318

Fax:046-849-3791

成吉思汗 泉の掟

卒業を迎える時期になると、いつも思い出す言葉があります。それは私が中学生だった時に、その当時の校長先生から伺った言葉です。それが『成吉思汗の泉の掟』です。

漢字では成吉思汗。もとの名はテムジン。それがチンギス・ハン(チンギス・ハーン/ジンギス・カンなど表記は多数)です。モンゴルの遊牧民諸部族を一代で統一し、中国北部・中央アジア・イラン・東ヨーロッパなどを次々に征服して、最終的には当時の世界人口の半数以上を支配したとされています。人類史上最大規模の世界帝国、『モンゴル帝国』の基盤を築き上げた人物です。歴史上の人物ですから、チンギス・ハンに対してはいろいろな見方や考え方があろうかと思えます。そのことは、ここでは割愛します。

チンギス・ハンが活躍したのは、今のモンゴル国にあたる東アジアや中央アジアになります。草原と砂漠が広がる地域で、この辺りの人々は、ひつじなどの家畜を遊牧しながら生活していました。遊牧が中心の生活ですから、季節によってもっとも遊牧に適した場所を探して、家畜とともに、なんと住居である「ゲル」と呼ばれる家屋も一緒に移動して暮らしています。草原と砂漠の広がる地域ですから、移動の際に、命の源である水の確保が非常に重要になってきます。基本的には砂漠の中にごくまれに出会う貴重な水辺(泉や川など)を利用するのですが、“自分”や“自分のグループ”だけで独占してしまったり、また、ゴミ

を捨てたり、汚してしまったり、後から水辺を求めてやってきた人(旅人)たちが大変な思いをすることになります。その時に大切なきまり=“おきて”があるのです。

次に来る旅人のために泉を清く保て

これがチンギス・ハンの「泉の掟」といわれるものです。意味は読んで字のごとくです。自分たちだけが良い思い(=泉の水を飲んでのどの渇きを潤す)をするのではなく、次に来る人のことまで考えて行動しなさい、ということです。「“自分”や“自分のグループ”だけが好き勝手にするのではなく、他の人や後から来る人(若者・後輩)のことを考えて行動しなさい。」という教えなのだとは私は解釈しています。

この言葉にある「泉」を「野比中学校」と置き換えてみたらどのようなになるでしょう。この場合、自分たちだけが野比中学校で過ごしているわけではなく、次に入学してくる後輩のことまで考えて行動しようと読み取れます。

令和4年度も残り1か月。卒業もしくは進級に向けて総仕上げの時期になりました。野比中学校がみなさんにとって、「砂漠の中の泉」=「オアシス」であったかどうか大切なことなのですが、その泉を後輩たちのために清く保つことが求められる時期でもあります。一年間の振り返りをしつつも、泉を清く保つ行動も心掛けていきたいものです。



弥生

今のカレンダーでは1月、2月、3月……となっていますが、旧暦では1月を睦月(むつき)、2月を如月(きさらぎ)と言っていました。そして3月のことを「弥生」と言っていたのです。カレンダー上の「月」を表しているのに、睦月、如月のように、「月」が入っているのですが、12月の「師走」と3月の「弥生」だけが「月」が入っていないのです。ちょっと面白いですね。

さて、弥生の意味なのですが、弥生の「弥」はいよいよ・ますます、「生」は草木が芽吹くことを意味しています。つまり「弥生」は、冬が終わりを迎え、草木がだんだんと芽吹く時期をさす言葉なのです。

ちなみに社会科で学習した「弥生時代」の「弥生」は「3月」の意味ではありません。明治17年(1884年)、東京府本郷区向ヶ岡弥生町(現在の東京都文京区弥生)の向ヶ岡貝塚から採集された土器が、縄紋式土器(今は縄文土器として学んでいます。)とは違うものであることから後に「弥生式土器(今は弥生土器として学んでいます)」と呼ばれるようになりました。その土器が作られた時代ということで、「弥生時代」の名前が誕生しました。

出会いと別れ

話を元に戻します。「弥生」のももとの意味が「草木がだんだんと芽吹く時期をさす言葉」だとすると、それは、新しく何かが始まるということでもあります。

中庭では梅の花が満開となりました。梅の花が咲くのは、この後に実がなり、新しい子孫を残す循環が始まるということです。季節がぐるっと回って新しい年度を迎えるということなのですね。

春がいろいろなことが始まる時期ですが、それは同時に出会いと別れの時期でもあります。3年生が卒業生として野比中学校を巣立っていく。1年生、2年生もそれぞれ2年生、3年生として進級して、今のクラスから新しいクラスへと変わっていく……。別れと出会いが連続していきます。

伝えなければ伝わらない

先日、我が家の夕飯に「とんかつ」が出ました。とってもサクサクしていて美味しかったのです。しばらく食べ進めていくうちに、我妻から私と息子は苦言を呈されました。

妻:「ちょっとー、今日のとんかつ美味しいよねー」

私:「うん。なんかサクサクしている感じ」

妻:「でしょー。油を変えたんだよね。美味しいなら、美味しいって言ってくれなきゃ、伝わらないよー。」

そうなのです。気心知れた相手でも、感謝の気持ちはきちんと言葉にしないと、本当には伝わりません。卒業式、修了式を迎えようとしている今だからこそ、家族に「ありがとう」と伝えてみてください。感謝の気持ちは伝えるところから始まるのです

新年度に向けて、皆さんがさらに生き生きと成長していくことを期待しています。

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり